

内閣総理大臣賞 ウッドクラフト・ゴトウ (愛知)

芦ノ湖から臨む富士山の風景を多彩に表現

第48回全国建具展示会にて最高位の内閣総理大臣賞を受賞したのは愛

知県のウッドクラフト・ゴトウの「組子細工入り戸」。受賞した感想に



後藤純文氏と受賞作品

ついで製作者である後藤純文氏は「嬉しいという感想が一番」と喜びを表した。ウッドクラフト・ゴトウは父親の後藤孝雄氏が昨年厚生労働省の卓越技能者（現代の名工）に選ばれており、業界でも名の知れた技能を持った事業所。過去には第30回全国建具展示会（鹿児島大会）において労働大臣賞を受賞している。今回の受賞作は息子の純文氏がほぼ一人で製作したという。

製作日数は10カ月。芦ノ湖から見た富士山の風景を組子細工で描いた4枚引戸であり、作品は既に売却済みとなっている。「お客様からの注文で芦ノ湖から望む富士山の風景を描く4枚引戸を製作しました。完成まで時間がかり、展示会開催の数日前によりやく出来上がった作品です」と、展示会開催直前に完成させた経緯を語った。

組子細工に使った木材は檜、スプ

ルス、ヒバ、ホオノキなどの素材であり、色柄を考慮して多彩に配置。箱根の山の本々を表す黄色の部分はイエローバーチ、芦ノ湖の奥に見える箱根神社の平和鳥居は赤色を強調するためにタイ北部の広葉樹パドゥクを採用するなど、風合いに合う材を工夫している。後藤氏も「鳥居の赤色が綺麗に出せたこと、富士山の曲線が上手く描けたことに満足しています。難しいところは色に合う木材の選択であり、組子のパーツを入れながら、全体のデザインを見つつ、感性が合わないと思うと再度外したりして、試行錯誤しながら製作しました」と、製作に当たって色彩感に注力したことを訴えている。

枠材は杉で作り、日本の風土を意識して国産材を使った。販売価格は850万円の設定。

次回作について聞くと、後藤氏は「この作品を完成させ、更に内閣総理大臣賞を受賞できてほっとしているというのが本音です。次回の作品は考える余裕がまだありません」と、今回の作品に精力を傾けた結果、まだ次の作品には着想できないという思いを吐露した。